

# 日本 NGO 支援無償資金協力

ウガンダ北部における元子ども兵士社会復帰の為の  
職業訓練センター建設プロジェクト報告書

Prepared by Shingo Ogawa  
Terra Renaissance

Kanyagoga A parish, Bar-dege division, Gulu, P.O Box 1085 Gulu  
Phone: 0782-810-798 E-mail shingo@civie.net

## 事業の成果（詳細報告書）

案件名：ウガンダ北部における元子ども兵士社会復帰の為の職業訓練センター建設プロジェクト

(Construction project of vocational training center for the reintegration of former child soldiers in northern part of Uganda)

実施地域：ウガンダ共和国 グル県

実施期間：平成 19 年 3 月 7 日～9 月 6 日

供与金額：83,421 米ドル

上位目標：ウガンダ北部の元子ども兵が社会復帰し、元兵士と住民の和解が促進される  
ことで紛争後の紛争再発予防と治安の安定化、復興支援へスムーズに移行する為  
の基盤が整備される

目標：元子ども兵が職業技術を身につけ収入向上活動を始めていく為の施設が整備さ  
れ、元兵士と住民がこの施設の共同建築作業や、和解促進の為のワークショップ  
を通して両者の和解が促進される

成果：1. 元子ども兵社会復帰の為の職業訓練施設が建設・整備される  
2. 元子ども兵と地域住民の和解が促進される

---

### （1）成果 1：元子ども兵社会復帰の為の職業訓練施設が建設・整備される

ウガンダ共和国北部のグル市において、反政府軍（LRA）に拉致され兵士とされてきた元  
子ども兵の社会復帰を目的として、同地の関連機関と連携・協力の下、同市バデゲ地区に2教  
室、延べ 75 人の元子ども兵士を対象とした服飾デザイン、木工大工の職業訓練施設及び施  
設敷地内のブロック塀を建設した。建設は住民参加型の手法で行い設計図通り施設建設、ブ  
ロック塀建設ともに予定期間内に完了した。また、29名の貧困層住民と17名の元子ども兵が  
建設作業員に関わり共同作業を通じてコミュニケーションをとることで、成果 2 の和解促  
進にもつながった（同作業員も全員ワークショップに参加）。

職業訓練施設に必要な資機材もすべて現地調達で期間内に整備され、資機材の管理体制も  
現地職員 2 名を中心に整えられ訓練を開始する準備が完了した。これにより「元子ども兵が収  
入向上活動を始めるために必要な服飾デザイン及び木工大工の職業技術を 1 年以内に身につける」という目標を実現する為の土台が整ったといえる。またブロック塀が完成したことで敷地内の警  
備が容易になり、より安全に機材や備品の管理することが可能となりその成果は十分達成できたと  
いえる。

## (2) 成果2：元子ども兵と地域住民の和解が促進される

全4回の和解促進の為のワークショップを(1)の建設作業員を含め元子ども兵士と現地住民を対象に予定通りの期間内に完了し、当初予定していた400名を上回る累計503名がワークショップに参加した。リピーターを含めるとワークショップの全参加人数は累計で838名に上り、各回の内訳は、第1回201名、第2回195名、第3回191名、第4回251名となった。また、同ワークショップのリピーター181名(2回以上の参加者)には和解促進のファシリテーターとして本プロジェクト資金から啓発用のメッセージTシャツを寄与しコミュニティでワークショップで得た情報や知識を元に和解促進の重要性をコミュニティの住民方に啓発していく役割を担ってもらった(リピーターのリストなど参加者名簿は別添資料2参照)。

また、各回のワークショップ後に意識調査(アンケート)を実施した結果、84%の参加者が元LRA兵士と住民の和解は将来のコミュニティにとって重要であると回答している一方で、60%の参加者がそれ(和解)を実現することは難しいと回答している。それに対して「今日のワークショップが和解の問題を解決するのに有用であったか」という問い合わせて92%の参加者が有用であったと回答し、93%が「今日のワークショップを通してコミュニティで互いに信頼構築していく重要性の認識を高めた」と答えている。また86%の参加者が同ワークショップによりアチョリ民族の伝統的な和解方法を参加する前よりもよく理解できたと回答し、93%の参加者が地域社会の平和を実現する為に、このようなワークショップに、もっと多くの人が参加した方がいいと回答している。(詳細は別添資料2参照)。以上の調査結果からワークショップ実施により「参加者の多くに何らかの意識の変化が見られ、元子ども兵と地域住民の和解が促進される」という成果は達成できたといえる。

## 2. プロジェクトの自己評価

### (1) 計画の妥当性

ウガンダ北部では1986年以降、政府軍と反政府軍(LRA)の紛争が続いている。その影響で、これまで2万人以上の子どもたちがLRAに誘拐され、政府軍との戦闘に駆り出され、地元の村々での襲撃、新たな子どもの誘拐、残虐行為などにも加担させられており、同地ではLRAから帰還した元(こども)兵士たちと地域住民の和解促進が課題とされている。よって、元兵士と現地住民が共に建設作業に関わり、ワークショップを通して両者の和解を促進するという同プロジェクトの妥当性は高いといえる。また、現在もLRAには約2500人の子どもたちが兵士として徴兵されていると言われており、昨年8月の政府軍と反政府軍の停戦合意以来、包括的和平合意への期待が高まる中、和平合意成立後には多くの子ども兵たちが一斉にコミュニティに帰還することが予想されるので、元子ども兵の社会復帰の為の施設を建設し、職業訓練の為の資機材を整備するという同プロジェクトの妥当性は高いと言える。

## (2) 効率性（時間、費用）

同プロジェクトへの投入金額 83,421 米ドルと日本人職員 2 名、現地職員 2 名、警備員 2 名の投入規模に対し効率的なプロジェクトが実施できたといえる。施設建設とブロック塀建設は住民参加型建設で行った為、必要な資材のみを購入し建設を進めることができ、担当業者の当初の見積もりに計上されていた臨時経費（Contingency）も一切使うことなく建設費を抑えることができた。グル市での同規模の建設コストと比較しても効率的に施設建設及び塀建設を完了することができたといえる。また、安全対策員として警備員 2 名を投入し資材管理、敷地内の治安維持を 24 時間体制で整えることができた為、資機材の盗難や紛失などもなく、建設に必要な資材を安全に管理することができ、また、昼間の警備員及びロジスティシャンが適切な資材を業者が使っているか確認することで手抜き工事などを防ぎ設計図通りの強度で施設、塀ともに建設することができた。よって、施設及びブロック塀の建設に関しては非常に費用対効果が高かったといえる。また服飾デザインの訓練資機材も同様に予算内で現地調達し安全に管理することができた。木工大工の訓練資機材に関しては予算編成時から値上がりしていた用具類などがあり若干予算を超えたが首都（カンパラ市）でのスタッフミーティングの機会などを利用しより安価で同品質の用具を首都で調達することで余分な出費を最小限に抑えるよう努力した。

プロジェクト全体は概ね予定通りのスケジュールで実施することができた（別添資料 3 参照）。ワークショップの開催は第 1 回目が T シャツ作成が遅れたことで 1 週間ほど開催が遅れたが、それ以降の 3 回のワークショップはすべて予定通りのスケジュールで実施され、その為に必要な講師の招致等の準備も適切に行われた。建設、資機材の調達のスケジュールに関してはプロジェクト中間時期（5 月末）まではすべて予定通りのスケジュールで実施したが、為替レートの急激な変動により中間時に予算管理を円滑に行う為、自己資金の投入を視野に入れ、プロジェクトの後半のスケジュールを若干軌道修正した。それにより、予定していたすべての活動を期間内に完了することができ、それに対して過不足ない量、質の投入がタイミングよく実施されたと言える。

## (3) 有効性

成果 1 の達成度から鑑みて「元子ども兵が職業技術を身につけ収入向上活動を始めていく為の施設が整備される」というプロジェクト目標は十分満たされたと言える。また「元兵士と住民が施設の建設作業やワークショップを通して両者の和解が促進される」という目標もワークショップ後の意識調査から鑑みると有効性が確保されたといえる。（別添資料 2 参照）

## (4) インパクト

成果 1 により元子ども兵の社会復帰の為の施設が整備されたことにより、今後、「ウガンダ北部の元子ども兵が社会復帰する」という上位目標の発現は本プロジェクトの効果として十分見込まれる。ただし、その上で「紛争後の治安の安定化、復興支援へスマーズに移行するための基盤を整備する」という上位目標は、今後の政府軍と反政府軍の

和平交渉次第である。昨年 8 月の停戦合意以来、両者の戦闘はほとんど発生いないが、今後、包括的和平合意まで成されるかどうかが上位目標達成の阻害要因として残っている。また、元子ども兵と住民との和解促進は成果 2 により有効性が確認されたといえるが、一方、実際に両者の和解が地域レベルで促進される為には、本プロジェクトで実施した意識調査でも 94 % の参加者が「地域社会が平和になる為に、本プロジェクトで実施したようなワークショップにもっとたくさん的人が参加した方がいい」と答えているように、今後も和解促進の為の活動、住民の和解に対する意識向上が継続的に同地域でなされることが上位目標達成の為に不可欠であるといえる。

なお、同国では貧困撲滅行動計画（PEAP）が進められているが、プロジェクト実施地域のゲル県では住民の 87 % (UNOCHA 資料より) が国内避難民キャンプに住む最貧困層であり、同地での職業訓練など収入向上につながる本プロジェクトは貧困削減を進める同行動計画への波及効果も見込まれる。

## (5) 自立発展性

現在、ウガンダ政府が国内不法小型武器行動計画を実施しており、その一つとして DDR (動員解除、武装解除、社会復帰) を重要な課題としており、北部地域の元（こども）兵士の社会復帰に今後も力点を置いていくことが見込まれている。

本プロジェクトで建設した社会復帰施設は当会が責任を持って維持・管理していくこととしており、その為の運営予算は当会で確保している。また、資機材を安全に管理する為の管理体制も本プロジェクトに関わった現地スタッフを中心に整えており、プロジェクト完了後には新たに警備員 1 名を雇用し敷地内の治安維持にも努めている。

本プロジェクト実施過程においては地域住民や元子ども兵士たちが住民参加型建設やワークショップ参加を通してプロジェクトの実施に直接関わっていることから、今後も同施設が地元の人々に密着したセンターとして活用されていくことが期待される。また、和解促進の為のワークショップに 2 回以上参加した 181 名が、それぞれ得た知識、情報などを今後、コミュニティの人々に伝え元兵士と住民の和解がコミュニティ一レベルで広がっていくことが期待される。

## 3. 今後の方針

本プロジェクトで建設した施設及び調達資機材は、当会が実施している「ウガンダ北部における元子ども兵士社会復帰支援プロジェクト」を現地住民及び関連機関と連携により効果的に実施するために活用し、常駐の現地スタッフ 4 名を中心に施設の運営と管理をしていくこととしている。また、昼夜それぞれ 1 名づつの警備員を配置し、施設敷地内の警備を 24 時間体制で整えると同時に、盗難、火災に備えた保険加入の為の経費を運営予算として計上している。

なお、すべての機材、備品には付番し、工具類など紛失の可能性が高い備品に関しては施錠つきのロッカーにて保管、管理し、資産管理担当のスタッフが定期的に点検を行うこととしている。また、発電機など定期的なメンテナンスが必要とされる機材についてはメンテナンス経費を運営予算に計上しているほか、刺繡機(2OU)などの特種なメンテナンス技術が必要な機材の管理には、そのメン

テナンス技術のある服飾デザインの指導員と契約し機材の維持、管理をすることとしている。

本プロジェクト完了後、職業訓練講師のリクルートを開始すると共に受益者の選定を協力団体と協議し始めており、施設完成後の最初の学期（07年12月に履修者登録 08年1月訓練開始）から最大 15 名の元子ども兵への木工大工訓練を開始することとしている。服飾デザインの訓練に関しては、現在当会プロジェクトに登録されている受益者 115 名（内元子ども兵 77 名）の内、履修を希望する受益者への訓練を施設完成後から開始しており、次学期以降は最大 60 名を服飾デザインの訓練生として登録することを想定している。

本プロジェクトで建設した職業訓練の為の施設を含めて当会が保持している洋裁、手工芸の訓練施設は将来的には現地住民グループ、現地 NGO に引き渡し、地元住民組織の手で運営・管理していくことができるよう想定しているが、今後最低 5 年間は当会が運営資金を拠出し運営・管理を行っていく必要があると考えている。

## 別添資料2

活動2成果表（啓発WS意識調査結果）

期待される成果：元子ども兵と地域住民の和解が促進される  
活動2-1～2-4：和解促進の為のワークショップを開催する

累計参加者人数：503名（リピーター含めて838名）

性別：女性289名/男性214名

元子ども兵士と住民の割合：元子ども兵士54%：地域住民46%

平均年齢：24.8歳

参加者数の内訳	人数
第1回ワークショップ	201名
第2回ワークショップ	195名
第3回ワークショップ	191名
第4回ワークショップ	251名
合計	838名

リピーターの内訳	人数
ワンタイム（1回参加者）	322名
リピーター（2回参加者）	87名
リピーター（3回参加者）	34名
リピーター（4回参加者）	60名
合計	503名

意識調査対象者	人数
第1回ワークショップ	141名
第2回ワークショップ	135名
第3回ワークショップ	131名
第4回ワークショップ	191名
合計	598名

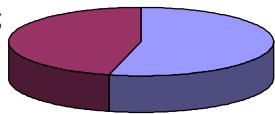
※意識調査対象者は極力、客観的な結果を得る為に当会現地スタッフ、既存の当会受益者などを除いた参加者を対象として実施した。

Question	Responses					Total Responde	Non Respond	Target number	Collection rate (%)	Remarks
	Yes	No	YES %	NO %						
Q1 Have you ever been abducted by LRA before?	1st WS	82	56	59.4	40.6	138	3	141	98%	
	2nd WS	70	44	61.4	38.6	114	21	135	84%	
	3rd WS	75	53	58.6	41.4	128	3	131	98%	
	4th WS	68	100	40.5	59.5	168	23	191	88%	
	<b>Q1 Total</b>	<b>295</b>	<b>253</b>	<b>53.8</b>	<b>46.2</b>	<b>548</b>	<b>50</b>	<b>598</b>	<b>92%</b>	
Q2 Do you think reconciliation between former LRA soldiers and local people are important for the future in your community?	1st WS	126	11	92.0	8.0	137	4	141	97%	
	2nd WS	106	7	93.8	6.2	113	22	135	84%	
	3rd WS	126	3	97.7	2.3	129	2	131	98%	
	4th WS	153	11	93.3	6.7	164	27	191	86%	
	<b>Q2 Total</b>	<b>511</b>	<b>32</b>	<b>94.1</b>	<b>5.9</b>	<b>543</b>	<b>55</b>	<b>598</b>	<b>91%</b>	
Q3 Do you think reconciliation between former LRA soldiers and local are people difficult?	1st WS	54	83	39.4	60.6	137	4	141	97%	
	2nd WS	61	48	56.0	44.0	109	26	135	81%	
	3rd WS	101	27	78.9	21.1	128	3	131	98%	
	4th WS	108	57	65.5	34.5	165	26	191	86%	
	<b>Q3 Total</b>	<b>324</b>	<b>215</b>	<b>60.1</b>	<b>39.9</b>	<b>539</b>	<b>59</b>	<b>598</b>	<b>90%</b>	
Q4 Do you think the workshop today is useful for solving the above problems?	1st WS	121	15	89.0	11.0	136	5	141	96%	
	2nd WS	100	13	88.5	11.5	113	22	135	84%	
	3rd WS	125	5	96.2	3.8	130	1	131	99%	
	4th WS	152	13	92.1	7.9	165	26	191	86%	
	<b>Q4 Total</b>	<b>498</b>	<b>46</b>	<b>91.5</b>	<b>8.5</b>	<b>544</b>	<b>54</b>	<b>598</b>	<b>91%</b>	
Q5 Could you understand the way of reconciliation in Acholi tradition through today's workshop more? (comparing before you attend today's)	1st WS	115	21	84.6	15.4	136	5	141	96%	
	2nd WS	95	18	84.1	15.9	113	22	135	84%	
	3rd WS	121	9	93.1	6.9	130	1	131	99%	
	4th WS	138	27	83.6	16.4	165	26	191	86%	
	<b>Q5 Total</b>	<b>469</b>	<b>75</b>	<b>86.2</b>	<b>13.8</b>	<b>544</b>	<b>54</b>	<b>598</b>	<b>91%</b>	
Q6 Have you changed or raised your awareness on the importance of trust building among the community through today's workshop?	1st WS	124	11	91.9	8.1	135	6	141	96%	
	2nd WS	107	4	96.4	3.6	111	24	135	82%	
	3rd WS	124	6	95.4	4.6	130	1	131	99%	
	4th WS	148	15	90.8	9.2	163	28	191	85%	
	<b>Q6 Total</b>	<b>503</b>	<b>36</b>	<b>93.3</b>	<b>6.7</b>	<b>539</b>	<b>59</b>	<b>598</b>	<b>90%</b>	
Q7 Do you think it is good for more people to attend the workshop like today in terms of realizing peaceful community in the region?	1st WS	127	10	92.7	7.3	137	4	141	97%	
	2nd WS	106	8	93.0	7.0	114	21	135	84%	
	3rd WS	125	5	96.2	3.8	130	1	131	99%	
	4th WS	154	11	93.3	6.7	165	26	191	86%	
	<b>Q7 Total</b>	<b>512</b>	<b>34</b>	<b>93.8</b>	<b>6.2</b>	<b>546</b>	<b>52</b>	<b>598</b>	<b>91%</b>	
Q8 Do you think we can change the future?	1st WS	129	6	95.6	4.4	135	6	141	96%	
	2nd WS	102	11	90.3	9.7	113	22	135	84%	
	3rd WS	120	9	93.0	7.0	129	2	131	98%	
	4th WS	150	14	91.5	8.5	164	27	191	86%	
	<b>Q8 Total</b>	<b>501</b>	<b>40</b>	<b>92.6</b>	<b>7.4</b>	<b>541</b>	<b>57</b>	<b>598</b>	<b>90%</b>	
Q9 Do you think we should forgive the LRA leaders without punishing at ICC?	1st WS	132	7	95.0	5.0	139	2	141	99%	
	2nd WS	65	45	59.1	40.9	110	25	135	81%	
	3rd WS	112	18	86.2	13.8	130	1	131	99%	
	4th WS	121	44	73.3	26.7	165	26	191	86%	
	<b>Q9 Total</b>	<b>430</b>	<b>114</b>	<b>79.0</b>	<b>21.0</b>	<b>544</b>	<b>54</b>	<b>598</b>	<b>91%</b>	

**Charts showing total responses to each question asked in all the workshops**

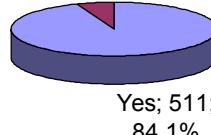
A Pie Chart Showing Total Responses to Question 1

NO; 253;  
46.2%



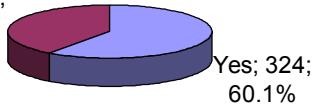
A Pie Chart Showing Total Responses to Question 2

NO; 32;  
5.9%



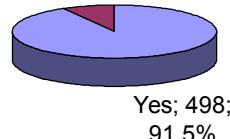
A Pie Chart Showing Total Responses to Question 3

NO; 215 ;  
39.9%



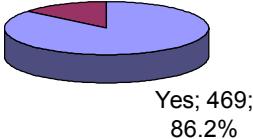
A Pie Chart Showing Total Responses to Question 4

NO; 46;  
8.5%



A Pie Chart Showing Total Responses to Question 5

NO; 75;  
13.8%



A Pie Chart Showing Total Responses to Question 6

NO; 36;  
6.7%



A Pie Chart Showing total Responses to Question 7

NO; 34;  
6.2%



A Pie Chart Showing Total Responses to Question 8

NO; 40;  
7.4%



A Pie Chart Showing Total Responses to Question 9

NO; 114;  
21.0%



## 別添資料3

チェック日： 2007年9月6日

## 日本NGO支援無償資金協力プロジェクト進捗管理表 WBS

レベル1 (成果レベル)	レベル2 (活動レベル)	マイルストーン	進捗 チェック	計画値 (月)	実績値 (月)	進捗率	主担当	副担当	結果
1 ・元子ども兵社会復帰の為の職業訓練施設が建設・整備される	1-1 職業訓練教室を建設する	建設業者との契約	1	0.5	0.5	11%	プロジェクトマネージャー	プロジェクトマネージャー	事業中間報告書 事業完了報告書 事業内容説明写真
		基礎工事完了	1	1.5	1.5	33%			
		屋根工事完了	1	1.5	1.5	33%			
		内装・電気工事完了	1	1	1	22%			
	1-2 訓練施設敷地内のブロック塀を建設する	計		4.5	4.5	100%			
		建設業者との契約	1	0.5	0.5	17%	プロジェクトマネージャー	プロジェクトマネージャー	事業中間報告書 事業完了報告書 事業内容説明写真
		基礎工事完了	1	1	1	33%			
		ブロック塀工事完了	1	1	1	33%			
	1-3 訓練施設の道標を設置する	ゲート設置工事完了	1	0.5	0.5	17%			
		計		3	3	100%			
		業者選定完了	1	0.5	0.5	25%	プロジェクトマネージャー	ロジスティシャン	事業中間報告書 事業完了報告書 事業内容説明写真
		業者契約完了	1	0.5	0.5	25%			
	1-4 木工大工訓練資機材を調達・設置する	道標完成	1	0.5	0.5	25%			
		道標設置完了	1	0.5	0.5	25%			
		計		2	2	100%			
		業者業者選定完了	1	0.5	0.5	20%	プロジェクトマネージャー	ロジスティシャン	事業中間報告書 事業完了報告書 事業内容説明写真
	1-5 服飾デザイン訓練資機材を調達・設置する	資機材発注完了	1	0.5	0.5	20%			
		資機材調達・設置完了	1	1	1	40%			
		資機材管理マニュアル策定	1	0.5	0.5	20%			
		計		2.5	2.5	100%			
		成果1 計		14.5	14.5	100%			
2 ・元子ども兵と地域住民の和解が促進される	2-1 第1回和解促進の為のワークショップを開催する	WS内容の検討と決定	1	0.5	0.5	25%	プロジェクトマネージャー	プロジェクトマネージャー	事業中間報告書 事業完了報告書 事業内容説明写真
		WS用Tシャツの調達完了	1	0.5	0.5	25%			
		第1回WS参加者登録元	1	0.5	0.5	25%			
		第1回WS完了	1	0.5	0.5	25%			
		計		2	2	100%			
	2-2 第2回和解促進の為のワークショップを開催する	WS内容の再検討と決定	1	0.5	0.5	33%	プロジェクトマネージャー	プロジェクトマネージャー	事業中間報告書 事業完了報告書 事業内容説明写真
		第2回WS参加者登録元	1	0.5	0.5	33%			
		第2回WS完了	1	0.5	0.5	33%			
		計		1.5	1.5	100%			
	2-3 第3回和解促進の為のワークショップを開催する	WS内容の再検討と決定	1	0.5	0.5	33%	プロジェクトマネージャー	プロジェクトマネージャー	事業中間報告書 事業完了報告書 事業内容説明写真
		第3回WS参加者登録元	1	0.5	0.5	33%			
		第3回WS完了	1	0.5	0.5	33%			
		計		1.5	1.5	100%			
	2-4 第4回和解促進の為のワークショップを開催する	WS内容の再検討と決定	1	0.5	0.5	25%	プロジェクトマネージャー	プロジェクトマネージャー	事業中間報告書 事業完了報告書 事業内容説明写真
		第4回WS参加者登録元	1	0.5	0.5	25%			
		第3回WS完了	1	0.5	0.5	25%			
		WS評価まとめ	1	0.5	0.5	25%			
		計		2	2	100%			
		成果2 計		7	7	100%			
		全体 計		21.5	21.5	100%			

別添資料3

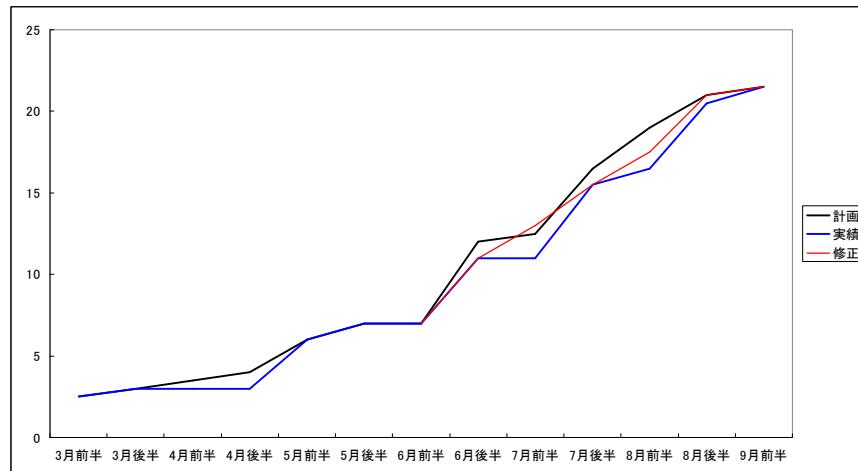
Date: 2007年 9月6日

## 日本NGO支援無償資金協力プロジェクトモニタリング進捗管理表(WPP)

## 別添資料3

日本NGO支援無償資金協力プロジェクト モニタリング進捗管理表(プロジェクト全体)

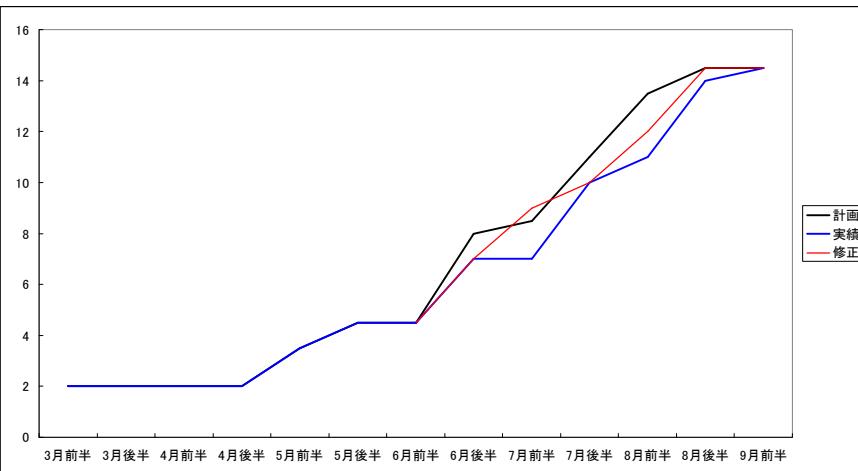
	3月前半	3月後半	4月前半	4月後半	5月前半	5月後半	6月前半	6月後半	7月前半	7月後半	8月前半	8月後半	9月前半
計画	2.5	3	3.5	4	6	7	7	12	12.5	16.5	19	21	21.5
実績	2.5	3	3	3	6	7	7	11	11	15.5	16.5	20.5	21.5
修正							7	11	13	15.5	17.5	21	21.5
進捗率	12%	14%	14%	14%	28%	33%							
SPI	100%	100%	86%	75%	100%	100%							



## 別紙5様式3別添資料

日本NGO支援無償資金協力プロジェクト モニタリング進捗管理表(成果1)

	3月前半	3月後半	4月前半	4月後半	5月前半	5月後半	6月前半	6月後半	7月前半	7月後半	8月前半	8月後半	9月前半
計画	2	2	2	2	3.5	4.5	4.5	8	8.5	11	13.5	14.5	14.5
実績	2	2	2	2	3.5	4.5	4.5	7	7	10	11	14	14.5
修正						4.5		7	9	10	12	14.5	14.5
進捗率	14%	14%	14%	14%	24%	31%							
SPI	100%	100%	100%	100%	100%	100%							



## 別紙5様式3別添資料

日本NGO支援無償資金協力プロジェクト モニタリング進捗管理表(成果2)

	3月前半	3月後半	4月前半	4月後半	5月前半	5月後半	6月前半	6月後半	7月前半	7月後半	8月前半	8月後半	9月前半
計画	0.5	1	1.5	2	2.5	2.5	2.5	4	4	5.5	5.5	6.5	7
実績	0.5	1	1	1	2.5	2.5	2.5	4	4	5.5	5.5	6.5	7
修正						2.5		4	4	5.5	5.5	6.5	7
進捗率	7%	14%	14%	14%	36%	36%	36%						
SPI	100%	100%	67%	50%	100%	100%							

